

ルールの改正点・修正点

1 6人制改正点・修正点

本競技規則は、2024年11月15日から17日にポルトガルのポルトで開催された第39回FIVB総会においてルール改正が承認され、2025年1月にFIVBより「ルールブック2025 - 2028」としてホームページに公表されたものである。それをもとに2025年度版ルールブックの改・修正点を以下のようにまとめた。

ケースブックについても2024年に改訂版が公表され、削除や追加されたケースなども多く、この機会に全体的な見直しを行った。

本年度のルールブックも「英文併記」とし、『ケースブック』についてもケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な改・修正点である。

●改正点

7.4 ポジション

サービスヒットの瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内に位置していなければならない。レシービングチームの選手はサービスヒット時、ローテーション順に位置していなければならない。

サービングチームの選手はサービスヒット時、どの位置にいてもよい。

7.4.4 サービスヒット後、両チームの選手は自チームのコートとフリーゾーンのどの位置にいても移動してもよい。

10.1 ネットを通過するボール

10.1.2 チームが1回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外からネット垂直面を越えて相手フリーゾーンに行った場合、チームの許容ヒット内で以下の条件のもとにプレーしてボールを取り戻すことができる。（第5図b）

10.1.2.1 規則11.2.2.1の場合を除き、選手が相手コートに触れない。

10.1.2.2 ボールを取り戻すとき、ボールの全体または一部は再びコートの同じ側の許容空間外からネット垂直面を越えなければならない。そうでない場合はボールアウトとなる。

相手チームはこの動作を妨げてはならない。（第5図b）

10.1.2.3 チームが2回目または3回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外を通過して相手フリーゾーンに行った場合は、ボールを取り戻すことはできない。ボールがネット垂直面を越えた時点でアウトとなる。

11.4 ネット近くの選手の反則

11.4.1 相手チームのアタックヒットの前または同時に、選手が相手空間でボールもしくは相手選手に触れたとき。（規則11.1.1、第11図㉔）

12.5 スクリーン

12.5.3 サービングチームの選手は、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上にあげてはならない。

意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはゲームキャプテンを通じてチームに注意することができる。

23.3.2 試合中、ファーストレフェリーは次の権限を持つ。

23.3.2.3 次のことを判定する。

i) サービスボールや2回目または3回目にヒットされたボールがファーストレフェリー側のアンテナ上方や外側を通過したとき。(第11図⑯)

24.3.2 試合中、セカンドレフェリーは次のことを判定し、ホイッスルしてハンドシグナルを示す。

24.3.2.8 サービスボールや2回目または3回目にヒットされたボールがセカンドレフェリー側のアンテナ上方や外側を通過したとき。(第11図⑯)

29.2.1 ラインジャッジはフラッグ (40×40 cm) を使用して次のことをシグナルで示す：

29.2.1.3 ボールがアンテナに触れたとき、またはサービスボールおよびチームの2回目または3回目にヒットされたボールが許容空間外側のネットの垂直面を通過したとき。(規則 8.4.3, 8.4.4, 第5図 a, 第12図④)

● 修正点

1. リザーブレフェリーの責務についての条文を修正した。

26.2.5 セカンドレフェリーを補佐し、プレーの妨げとなるものがフリーゾーンにないように注意する。

26.2.6 セカンドレフェリーを補佐し、退場や失格となったチームメンバーがチーム控室に行くように指示をする。

26.2.9 ファーストレフェリーを補佐し、モッパールの任務を管理する。

2. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。

3. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。